

# こうのとり通信

～兵庫県助産師会だより～

一般社団法人 兵庫県助産師会

第12号(24) 2019年3月31日発行  
(発行部数 400部)

発行責任者 岸本喜代子  
編集責任者 奥 陽子



神戸市中央区下山手通5丁目8-14  
山手グレイハイツ305号

TEL: 078-362-1310(月～金) 10:00～16:00

FAX: 078-362-2737(24時間)

Email: info@hyogo-josanshikai.com

HP: http://hyogo-josanshikai.com/

## ごあいさつ

副会長 國廣 晴美

春風の候、皆様にはご清栄のこととお喜び申し上げます。いつもお世話になり、誠にありがとうございます。

さて、今年5月、平成から新しい元号となります。平成元年は合計特殊出生率1.57ショックで始まり、その後30年にわたり少子化が進展し、近年周産期メンタルヘルスの問題、児童虐待は深刻化しています。母子の健康水準を向上させる国民運動計画「健やか親子21」は、平成27年「健やか親子21 第2次」としてその取り組みは継続しています。

課題の1つである「切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策の充実」では、地域の特性に応じた様々な取り組みが市町単位で展開され、各事業や関係機関間の連携強化が求められています。私たち助産師には、それぞれの地域で活動する助産師が協働し、保健・医療・福祉等関係する多職種との連携しながら、地域に根差した母子保健活動の実践が求められています。

そこで、本会では今年1月に「市町・地区助産師会等代表者連絡会議」を開催し、兵庫県各地域の母子保健活動の現状についての共有と情報交換を行いました。現在兵庫県下では12の市町及び地区において助産師会を立ち上げ地域に根差した活動をされています。今後は、より多くの地域で、助産師が協働して地域に根差した活動ができるよう、検討していきたいと考えています。

また、今年度より、必要な情報をいち早く会員の皆様にお届けできる方法の一つとして、会員メーリングリスト(受信専用)を始めました。このメーリングリストは本会からのお知らせ、厚生労働省、兵庫県など行政や日本助産師会からののお知らせ、他団体からの研修等の案内、災害時の連絡手段として運用しています。まだ登録をされていない方は、事務局へお問い合わせいただき、ぜひ登録手続きをお願いいたします。

最後になりましたが、うれしいご報告をさせていただきます。助産師として長年地域母子保健に寄与された、佐々木しゅう先生はこの度瑞宝単光章をご受章されました。長年のご功績に対する、栄えあるご受章を心からお祝い申し上げます。

改元にあたり、これまで先輩方が築いてこられた助産師としての知恵や技を伝承し、人とのつながりを大事にしながら、地域社会に根差した母子保健活動の実践のために、会員の皆様と共に歩んでいきたいと思っております。これからも皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。



総毛理事 加須慶理事 谷川理事 高田理事 藤井理事 毛利監事 郷原監事  
鈴井理事(副会長) 岸本代表理事(会長) 國廣理事(副会長)

# 専門部会だより

## 助産所部会より

少子化に伴い、助産所・自宅出産数は減少しておりますが、助産所や自宅で助産師にそばにいてもらい持てる力を最大限発揮して出産を望まれる方は途絶えることはないと思います。その時助産所がなくなっていたら産婦さんは？

助産所部会は、分娩を取り扱う助産所開設者、又は従事者である社員をもって組織されております。それゆえ少人数ではありますが、医療機関との連携に努め救急薬を整え、毎年研鑽を積み、評価を受け、助産所責任保険をかけ、入院を受けるが為に消防通報設備を整える等、日々安全安楽を担保するために努力し続けています。

医療法改正に伴い出張分娩でも嘱託医を定めることが必要になりました。嘱託医の確保は、開業にあたり私も長年かかったポイントでありました。そして助産所は三次救急の病院とも連携しなければなりません。二人の命を預かる、ひいては家族全体を預かり、産婦さんや嘱託医そして社会から信頼される助産師・助産所であるためには、当然、努力は必要であります。これからも厳しき道ですが部会全体で歩んでいきたいと思っております。

(助産所部会長 加須屋 淳江)

## 保健指導部会より

今年度は、部会長は2期目ですが部会役員が入れかわりスタートしました。新しい目で現状を把握し将来を見据えた活動を目指しています。

部会企画研修会を『産後のママに寄りそう母乳支援』『母乳育児中の乳がんを見落とさないために』というテーマで2月3日に開催しました。母乳育児中の母親が安全で安心して母乳育児ができるための支援および女性の健康を配慮した支援ができるよう、乳腺外科医師と助産師を講師としてお招きし、関心の高い研修会になりました。

平成31年1月1日、佐々木しゅう様が瑞宝単光章を受章され、2月7日に兵庫県医務課より伝達式が行われました。昭和25年から平成20年までの分娩は7014件。尼崎市で助産院を開業し戦後の産めよ増やせよの時代を担われ、少子高齢化の現在に至るまでの地域の母子に寄りそった活動をされたご功績の賜です。現在は保健指導部会に在籍されていますので、これからも先生のお知恵と技と心のご指導をいただきたいと願います。

母子の切れ目のない支援は、行政と開業助産師・地域の助産師が連携し母子を支援する体制と、助産師のつながりが大切です。また、他職種との連携も必要です。来年度は、助産師の原点に戻り、アドバンス助産師必須研修をもとに知識と技術を自己研鑽し、安全で誠実なケアとつながりを配慮した活動を考えています。

今後も、皆様のご指導とご協力およびご参加をお願い申し上げます。(保健指導部会長 坂田 富貴子)

## 勤務助産師部会より

勤務助産師部会は、病産院に勤務する助産師と教育機関に所属する助産師が主な部会です。少子化と病院の集約化に伴い混合病棟が増え、妊産婦さんへの十分なケアが行き届かないなど、ハイリスクの方々へのケアの困難さ等を痛感されていると推察いたします。そこで、勤務助産師部会では、事例の検討を通して実践能力を高める試みを2年継続して行っています。毛利助産師の的確なアドバイスに、助産師の「手」の魔力を思い出した、と好評です。WHO「ポジティブな出産経験のための出産ケアガイドライン」が出されるなど、妊産婦さんの本来の力を信じて支援するのは、今です。次年度も継続は力として企画しますので、ご参加をお待ちしています。

(勤務助産師部会長 高田 昌代)

## 委員会だより

### 教育委員会 ～三部会が力を合わせて、助産師会ならではの教育計画を目指して～

平成30年度は、3部会と各委員会が主催する研修会すべてを兵庫県助産師会の「ちからアップ研修」としました。研修内容や時期の偏りをなくして年間の研修を一覧でわかりやすくしたこと、またHPも充実させてより参加しやすくなるように工夫しました。従来の教育委員会主催の研修企画・運営だけでなく、他の部会・委員会と協同しながら研修を行うことで、横の繋がりも広がってきました。

平成31年度は、助産実践能力習熟段階認証の申請・更新に対応した研修はもちろんのこと、初めてJ-CIMALS（日本母体救命システム）の開催も企画しております。また、兵庫県助産師会ならではの研修である地域で活躍している開業助産師さんのもとで、自然出産に導くための妊娠期からのケアや保健指導、自然出産や産後ケアが学べる「助産所研修」を助産所部会のご協力のもとで継続いたします。今後も皆様に満足していただける魅力のある研修を企画していきたく思います。



←研修会の申し込みはこちらから

(教育委員長 石田 弘美)

### 産後ケア事業推進委員会 ～研修会「産後ケアの実際と今後」を開催しました～

平成31年1月26日に兵庫県学校厚生会館にて、研修会「産後ケアの実際と今後」を開催しました。神戸市の宿泊型は毛利助産所、姫路市の通所型は姫路赤十字病院、訪問型はさいとう助産院、姫路市の担当保健師の4名の講義の後、シンポジウムで意見交換を行いました。県内外から84名の参加があり関心の高さがうかがえました。

産後ケア事業の研修会は3年目で、当初は行政職や開業助産師の参加が多数でしたが今年は病院助産師の参加が多く、退院後の母子への関心の高まりや病院でのケアやその事業化を模索しておられる状況が感じられました。(当会HPの研修報告もご覧ください。)

県内41市町の内、産後ケア事業の宿泊・通所・訪問型のすべての実施は13市町で、検討中の自治体も多く、産後のケアに格差のある現状です。人生の大きな節目に女性と子どもが大切にされ安心して過ごすためにも、この事業の充実は不可欠で、ケアの質の向上や従事者の確保、地域格差の解消に当会の果たす役割も大きいと感じました。

(産後ケア事業推進委員長 井上 千秋)



研修会「産後ケアの実際と今後」の様子



研修会「ちからアップ研修」の様子

## 安全対策委員会 ～ケアの一つ一つに安全の意識を～

日頃より安全対策委員会の活動へのご理解とご協力を賜り、ありがとうございます。

平成30年度の「助産所安全管理評価」を無事に終え、すべての助産所が今年もAまたはB評価でした。助産所の日常のケア、管理を振り返るよい機会となっています。

また、授乳時のヒヤリハット事案があり、安全対策委員会で1年間を通して検討を続けています。授乳方法や観察、声かけなど、日常行っているケアを母子の安全の視点で再度振り返り、見直しが必要であれば改善しましょう。

「母乳育児支援に関する自己評価」についても、今後、保健指導部会と協働で、日常行っているケアの安全面について検討していければと考えています。安全について何かご相談等がありましたら、安全対策委員へご連絡ください。

(安全対策委員長 森田 輝)

## 災害対策委員会 ～災害ボランティアに登録しよう～

会員の皆様、昨年は災害の多い年でした。先日も熊本で震度5の地震があり、各地で震度4以上の地震が多発しております。今後、地震だけでなく、台風、豪雨などに伴う風水害、土砂災害といった自然災害も懸念されています。自分自身の備えと共に、助産師として被災地の妊産婦と母子の支援活動ができるように、日本助産師会の災害ボランティアの登録をご案内いたします。登録は無料です。登録することによって、全国の助産師会が持っている災害に関する情報提供の共有、ボランティア活動保険が自動加入となります。

登録は、日本助産師会ホームページ [midwife.or.jp/index.html](http://midwife.or.jp/index.html) の「会員専用ページ」をご覧ください。

(災害対策委員長 細川 由美子)

## 福祉厚生委員会 ～助産師としての備えを～

お母さんと赤ちゃんの支援に携わる私たちは、日ごろより自身の健康管理に注意して毎日を過ごしています。

しかし、万一結核や麻疹・風疹などの感染症に罹患して感染源となった時は、本人はもとより関係者・お母さん・赤ちゃん・ご家族など、周囲への影響は計り知れないほど大きく、助産師として社会的責任を問われる可能性もあります。心身の健康状態を確認し、助産師賠償保険に加入して安心して日々を過ごしましょう。

(福祉厚生委員長 大内 久子)



## 文化祭の「これから」

兵庫県助産師会文化祭が、昨年の11月3日‘文化の日’に、神戸市中央区のラッセホールで開催されました。来賓として、兵庫県健康福祉部参事兼健康局医務課 味木和喜子課長、医療人材確保班 村上直美主幹、兵庫県産科婦人科学会会長 大橋正信先生がおいでくださり、表彰や日本助産師会 山本詩子会長の講演を、会員とともに聞かれました。今回の表彰者を代表し、川口芳子様、藪内悦子様、渡邊和枝様から、ご挨拶をいただきました。

そして参加者全員でのマイクリレーでは、普段の新生児訪問の様子から現代の母子について思うことや、産後ケア事業の矛盾や課題、勤務する病院でのメンタルヘルスケアに取り組んで見えてきたものなど、意見や展望、愚痴も含めて、それぞれが助産師としての思いを吐露しました。また最近取った資格や進学したことの報告や、孫の出産に立ち会ったことなど、幾つになっても好奇心と向学心に溢れる会員の近況報告も聞けました。

かつての文化祭は、活動歴の長い諸先輩方から、笑いあり涙ありの巧みな話術で昔のお産の話を直接にお聞きでき、会員が交流できる貴重な機会となっております。しかしそのような歴史ある本会の文化祭ですが、ここ10年ほどは年々参加者が減る傾向にありました。そこで次年度からは地域の女性、お母さん達も参加していただくような新しい‘文化祭’を検討することになりました。

今後のことは詳細が決まりましたら皆様にお知らせいたします。まずはこれまで、本当にありがとうございました。今後とも共に集い交流する場を一緒に作っていきましょう。どうぞよろしく願いいたします。

(理事 藤井 ひろみ)

### 表彰おめでとうございます



川口 芳子 様 藪内 悦子 様 渡邊 和枝 様



WELCOME

## 新入会員のご紹介

WELCOME

	保健指導部会	勤務助産師部会	賛助会員（助産師学生）	
新入会員	坂井 伶亜（阪神北）	川原めぐみ（阪神南）	松川 香織（阪神南）	兵庫県立総合衛生学院 7名 関西看護医療大学大学院 2名 神戸市看護大学大学院 10名
	宮崎 亜蘭（阪神南）	片石 千夏（但馬）	前田 圭子（阪神北）	
		片田 千尋（神戸）	吉岡 早苗（阪神南）	
		大森 利絵（阪神南）	今田 愛（神戸）	
		田中 智子（神戸）	中村 智子（阪神南）	
	柿原 磨美（神戸）			
転入	内田 友美（東播磨）	姚 明希（阪神南）	黒田 裕子（東播磨）	
		野原 留美（神戸）		

2018年4月1日～2019年2月28日の入会者 敬称略

兵庫県助産師会 会員数 330名（2019年2月28日現在）



←入会の申し込みはこちらから

## 賛助会員になって

神戸市看護大学大学院 助産学実践コース 平川 真梨さん



私は神戸市看護大学大学院で、2年間助産を学んできました。助産実習では、有床助産所を知ることから始まり、病院やクリニックでの分娩のケア、2組の母子の継続ケア、無床助産所の助産師の活動などを学びました。最後に有床助産所での実習をもって、2年間の学びの締めくくりとなりました。私はこの2年間、野の花助産所で実習をさせていただきました。ちょうど管理者が交代する時期でもあり、助産所の管理・運営の難しさなども感じました。しかし、女性にとって必要な場所である助産所を引き継ぎ、守り続けていくことの大切さを知ることができました。大変な時期であるにも関わらず、丁寧に指導していただきました。時には私の学んできたことを助産所のケアに活かしてくださり、こうして知識が実践へとつながっていくのだということを実感し、とても嬉しく思いました。この先も、多くの女性が質の高いケアを受けることができるように、自律した助産師として、日々頑張っていきたいと思えます。

## 本会を支えてくださっている方のご紹介

ホームページ管理担当 藤田 泰子さん（有限会社オフィスミナル代表）



2006年から須磨区の板宿にてWeb制作等をしており、2013年の助産師会ホームページ開設からホームページの管理を担当しています。

息子が2人（高校生と中学生）おりますが、母乳が出にくい私は、次男の出産後、助産師さんに母乳マッサージをしていただきました。天井まで吹き飛んだ母乳を見たときには、とても驚きました。おかげさまで1か月は母乳を与えることができ、母として幸せな気持ちを感じることができました。乳児の時期から仕事ばかりしてしまい、育児を疎かにし、母になることを心底喜べない、育児を楽しめないと感じることもありました。息子達は家族や周りの方々のご協力をいただき、成長することができていますことを、深く感謝しています。

「子どもを持ちたいと思える」「子どもを育てることを楽しめる」そんな環境作りのために、助産師さんの存在は大きな力だと思います。命に関わるお仕事をされている助産師さんのお仕事に、微力ながらご協力できますことを嬉しく思います。



## トピックス

### 「小さいいのちのドア」がスタートしました

育てられないと途方に暮れる妊産婦のために24時間来所および電話で相談をお受けする「小さいいのちのドア」が2018年9月からマナ助産院の一角でスタートしました。5か月が経過した1月末までに376件の相談がありました。その内、来所相談が15件、未受診の妊産婦の相談は11件お受けし、それぞれに病院や児相、民間団体などにつながることができました。表面に現れた問題も深刻ですが、その背景や生育歴に深刻な問題を抱えているケースも少なくなく、心のこもった温かいケアの必要性を痛感しながら、微力ですが全力で取り組んでおります。

元々この事業はNPO法人が関西で2年間に3か所でこのとりのゆりかごを開設するというで始まり、マナ助産院もその一つとして加えられていましたが、昨年3月にNPO法人は撤退、マナ助産院単独の事業となり、ゆりかごではなくドアとして始めることになりました。ここに至るまでに何度も大きな壁の前で立ち尽くしましたが、赤ちゃんポストではなくドアという、赤ちゃんと女性の二つのいのちに関われる助産師本来の形にたどり着くことができました。助産師会の皆様が温かく見守ってくださいますことを心より感謝致します。またご報告の機会を与えて頂き有難うございました。


(マナ助産院 院長 永原 郁子)

### K 刑務所における女子受刑者への子育て支援と助産師の役割

日本における女子受刑者（以下、受刑者）の入所者数は約4,605人(平成27年末現在)であり、その数は経年的に増加傾向を示しています。18歳未満の子どもをもつ受刑者も多く、出所する数年間は面会以外、子どもと会う機会はありません。また、入所中に出産をする人も微増しています。主な罪名は覚せい剤取締法違反（以下、覚せい剤）と窃盗であり、受刑者の多くは未成年期に重症度の高い児童虐待を受けています。そして、親の暴力から逃れるために学童期後半から夜間徘徊、家出を繰り返し、その過程でシンナーや覚せい剤等の犯罪と出会い、妊娠・出産も経験しています。

受刑者の体験した壮絶なまでの暴力と恐怖体験は、受刑者の養育体験として内包され、自分の子どもを産んでもネグレクトや暴言・暴力を子どもに向け、かつては受刑者が経験した児童虐待を、今度は自分の子どもに向けていきます。特に、重症度の高い性暴力や児童虐待はその後遺症として、これまで報告されてきた受刑者の人格障害を発症させ、子育ての養育能力を著しく損なわせてしまいます。加えて、家族関係が破綻している家庭に育っているため、出産後の子育て支援は乏しく、適切な養育方法も分からないままに子育てをしているのが実状です。

よって、母子保健の専門家である助産師として、子育てに悩んでいる女子受刑者への子育て支援はとてニードが高く、児童虐待の負の連鎖を断つ意味でも意義深い活動として求められています。兵庫県は、全国に10箇所ある女子刑務所のうちの1つがあり、兵庫県助産師会としての新たな活動支援の場として重要な位置づけにあると考えています。今後、助産師による受刑者への子育て支援を行うための研修会を実施予定です。大勢の参加者を期待しています。



(理事 鈴木 江三子)

## 瑞宝単光章を受章されました



佐々木しゅう先生

平成31年1月1日、

瑞宝単光章を受章されました。

栄えあるご受章を心よりお祝い申し上げます。

今後とも本会活動にお力添えいただけますよう

お願い申し上げます。

いつまでもお元気でお過ごしてください。

## 2019年度 兵庫県助産師会定時社員総会のお知らせ

と き 2019年5月12日(日) 10:00～

ところ JEC 日本研修センター神戸元町

ぜひご出席くださいますようお願いいたします。

## 選挙管理委員会からのお知らせ

### 2020年は選挙の年です

2020年春に役員候補者選出および  
専門部会長選出を行います。  
ぜひご参加ください。



### 事務局より

1月16日に事務所マンション5階の温水給湯器設置ミスにより、本事務所に漏水がありました。被害があった部分は設置会社の保険対応により全て修復していただきました。事務所工事中は、会員の皆様にはご不便をおかけしました。ご報告申し上げます。

### 編集後記

今回は、年の締めくくりにあふさわしい記事を、選りすぐりお届けいたしました。記事編集を通して、本会活動が前進していることを実感したとき、とてもうれしい気持ちになる私たちです。次年度は、昨年改修したホームページを丁寧に見直していく予定です。このとり通信およびホームページに関するご要望がございましたら、いつでもお知らせください。

広報委員：奥・上月・佐治・徳重・松岡 担当理事：藤井

